



みなさん、こんにちは！

令和2年度から山口県子ども会連合会専門委員をしております武居奈緒子（たけすえなおこ）です。

頑張らないといけない時、つらい時、緊張する時、さみしい時…、どんな気持ちの時でも、少しでも心と体が元気に『ほっ』となれるお手伝いができたらと思っています。どうぞよろしくお願い致します☆

今日は、私の自己紹介そして子ども達の現状と子ども達へのかかわり方のヒントについてお話したいと思います。

自己紹介

<名前> 武居奈緒子（たけすえなおこ）

<資格> 臨床心理士・公認心理師・中学校高等学校教員免許

<主な仕事> 精神科病院勤務を皮切りに、未就学児の発達相談や

働く大人のメンタルヘルス、市民のカウンセリング等に携わってきました。

現在は、県のスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとして

小、中、高支援学校・専門学校で、子ども達や保護者の方の相談を受けたり

心の授業や講演活動をしています。

また、精神科病院や就労サポート施設でも、思春期・青年期の方達に多く

かかわっています。

子ども達の現状

豊かな時代、どうにかなる時代になり、どこにいても誰かとつながっていることが安心になる子もいれば、それによって人との付き合いで生きづらさを感じている子もいます。そんな中で学校に行きづらかったり、集団への不安が強かったり、環境に敏感に反応してしまう子、ストレスをどう表出しているのか分からない子は年々増え、低年齢化しているように思います。



子ども達へのかかわり方のヒント

適応障害、うつ、HSPなどこころの健康や発達障害がクローズアップされ、世の中で認知され理解が深まっている一方で、障害名や診断名が独り歩きしてしまい、その子（人）自身や背景に目を向けることが置き去りにされているようにも感じています。

見えるものの向こうにある見えないものを考える

多様性を尊重した理解（こころ）で、見えない傷や言葉の向こうにある気持ちに意識を向けられるあたたかさを持つといいなと思います。

まずは能力よりも自信をつけること

子ども会活動における幅広い世代との交流によって、見方（味方）が増え、認められる機会も増えます。子ども達が地域に愛着を持ち心のつながりをつくれることで安心や居場所も増えます。それは、子ども達のこころ=いのちを守ることに繋がるとしています。

